

茗溪学園中学校高等学校の震災被害状況

茗溪学園中学校高等学校 教諭 穂本 貴通

1. 当日の学校の状況

学年末テストを終えての午前授業日であった。学校に残っていた生徒達は、校舎内、体育館、グラウンドで課外活動に取り組んでいた。教員は成績会議前の教科会議中であった。

2. 地震発生時の様子

筆者は理事長室で理科の教科会議中であった。大きめの初期微動を感じ、次第に揺れが大きくなっていった。その場にいた教員は、ドアや窓を開け避難経路を確保したり、部屋の棚や置物が倒れないように押さえたりして、揺れが収まるのを待った。

課外活動を行っていた生徒達からは悲鳴が上がった。

3. 地震発生後の対応（避難・待機・生徒の下校の様子）

揺れが収まった後、放送による誘導で、生徒・職員は校庭に避難、クラス毎に点呼をとった。生徒達は課外活動着のままでの集合となった。待機中に茨城県沖の余震が発生、筆者は増設したコンクリート校舎がまるで豆腐のように大きく揺すぶられるのを目撃した。

親との連絡が取れた近隣の生徒は帰宅させた。常磐線や TX が不通となり、ひたち野うしく駅、研究学園駅で立ち往生していた生徒達は、スクールバス等で回収し、学校に待機させた。親との連絡が取れなかった生徒や、親の迎えを待つこととなった生徒は、次第に寒くなったため、第2食堂へ移動させた。教員の誘導により、安全を確保しながら、校舎へ着替えを取りに行かせたりした。つくば市は断水状態となったが、学園では給水タンクに水が確保されており、帰宅困難となった160名ほどの生徒は食堂で備蓄してあった非常食を夕飯とし、寮の寝具をリースしている業者に提供していただいた毛布に包まって床で仮眠を取った。翌朝は、カレーを朝食とし、スクールバスの特別便を用意して、数名の生徒を除いて帰宅させることができた。

4. 校内の被害の状況

校舎の建物は兵庫県南部地震以降に段階的に耐震工事が実施されており、業者による点検調査でも、立入禁止措置や建替えを必要とするような大きな被害はなかった。小さな被害としては、

- ① 高校棟・中学棟で西側に増設した教室と既設の建物の繋ぎ目部分の破損
- ② 体育館のステージボード一部の剥がれ落ち
- ③ 中学棟4階での水道管の破損による一部教室の浸水
- ④ 図書館、各教科準備室等での書籍の落下、一部書架の転倒



図書館での書籍落下の様子

などが見られた（右写真）。

5. 学校周辺の被害状況

古い建物の屋根瓦の落下、鉄筋のないブロック塀の倒壊、墓石の転倒などが各所で見られた。一時、停電となり、道路は渋滞となった。また、断続的な断水にも見舞われた。ガソリンスタンドでは給油が困難な状況になり、3月中は連日長蛇の列ができていた。スーパー、コンビニエンスストアでは、食料品を中心にしばらく品薄の状態が続いた。

6. 地震後、学校再開まで

断続的な余震、常磐線の運休により、翌日から臨時休校措置を取り、16日の卒業式、19日の終業式も中止とした。23日を臨時登校日とし、全校集会後、私物整理・通知表配付などを行い、翌日から春休みに入った。

春休みに破損箇所の補修工事、倒れた書架などの整理・片づけを行い、新学期は予定通りに開始することができた。

7. 今回の地震について反省・改善すべき点、提言等

段階的に行われた耐震工事により、建物の被害が最小限に抑えられ、一部書架などの転倒があったものの、人的被害はなく幸いであった。倒れた書架などでは、重い物が上部に置かれていたり、安定性が悪かったりしていたので、設置方法には改善が求められる。通学範囲が広いため、交通機関がマヒした時に帰宅困難となる生徒が多く出てしまうことへの対応策も今後の課題である。